



## 終章

# 東アジア情勢と地域安全保障体制の構築

宮本アジア研究所代表（元駐中国大使）

宮本 雄二

### 【ポイント】

- 人類的、地球的課題が山積する時代の人類社会の主旋律は協力であるべきなのに、東アジアは「安全保障のジレンマ」の心理状態に陥っている。米中間には戦略的相互信頼が未確立で、軍事衝突の蓋然性を高めている。科学技術が急速かつ無限に発展していくにもかかわらず、人類は科学技術の発展をコントロールする術を見いだしていない。
- 東アジアの現実の安全保障環境は急速に悪化し、特に台湾海峡をめぐる米中の軍事的緊張の増大は大きな懸念材料だ。米国はどこまでが限界か、中国の外交的レッドラインを試し始めた。中国は米国の軍事的レッドラインを試している。米中がレッドラインを試し合う現状は、きわめて危険な状況にある。
- 現在は軍事安全保障のロジックが前面に出てきており、米中が牽引する軍拡競争は当分の間、継続すると見ておくべきだ。意思疎通を図ることで危機管理は可能となり、戦略的安定も達成できる。東アジアにおいては日中、米中、日米中の対話を強化し、一定の戦略的相互信頼を確立することが喫緊の課題だ。
- 東アジアにおける安全保障体制構築の総合戦略は、多元的かつ重層的な構造となる。種々の要素を包含し、短期、中期、長期の行動計画を持たなければならない。日中のシンクタンク、有識者は、共同作業を直ちに開始しなければならない。



注目データ

### 東アジア安全保障体制構築総合戦略行動計画

短期行動計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホットライン設置や国防当局同士の協議連絡メカニズムの設立</li> <li>・演習の相互通報や相互視察などの信頼醸成措置の仕組みを強化</li> </ul>
中期行動計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「協調的安全保障」の概念に着目</li> <li>・東アジア版のOSCE（欧州安全保障協力機構）創設の議論</li> </ul>
長期行動計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東アジア安全保障メカニズムの構築</li> <li>・共通目標を導く理念、価値観、原則に関する日中の議論</li> </ul>

資料：筆者作成